

[海外研究・教育活動]

南太平洋 4 カ国のJICA研修員が生活習慣病予防について 1 カ月の研修を受け自国の地域アクションプランを作成しました

新潟医療福祉大学 健康科学部 健康栄養学科 村山伸子

1. 研修の背景

南太平洋諸国では、生活習慣病の罹患者、および肥満などのリスクをもつ人が急増しています。生活習慣病に罹患した場合には医療費がかかりますし、医師の人数が少ないために十分な対応ができません。そこで、“予防”が重要となります。WHOも南太平洋地域については、生活習慣病の予防に力を入れています。日本のJICA（国際協力機構）も各国の人材育成に力を入れており、生活習慣病予防についての人材育成研修は、2005年に開始した愛知健康の森健康科学総合センターに次いで本学は全国で2か所目であり、大学が受け入れ機関となるのは初めてということです。今回の研修の特徴は、南太平洋諸国に限定し、しかも地域単位の予防に焦点をあてていることです。そのため、新潟県や市のような地域単位の取り組みが参考になると考えられたのです。また本学では健康科学部に運動、栄養、看護の教員がそろっており、研修機関として目的を達成できるとしてJICAより委託を受けました。実施は2009年から3年間の予定です。

2. 対象国と人数

フィジー、ソロモン、マーシャル諸島、バヌアツの看護師6名、栄養士1名の計7名。

3. 研修期間と目的

研修期間は、2009年10月15日～11月13日まででした。目的は、生活習慣病の予防法、計画策定技法について学び、各地域で実施するための包括的なプログラム計画（地域アクションプラン）を作成することです。コースは5つのモジュールから構成され、各モジュールのねらいは次のとおりです。

モジュール1：自国や大洋州における問題点とその対応策の動向を説明できる

モジュール2：日本における生活習慣病病態別プログラムとその効果について理解することができる（がん、循環器疾患、糖尿病、歯科保健）

モジュール3：日本における実践的な生活介入法やライフスタイルに応じた生活介入法を理解し、その指導方法を把握する（運動、栄養、喫煙、メンタルヘルス／母子、学童、成人、高齢者）

モジュール4：生活習慣病予防の包括的プログラム構成と計画、管理法を学習し、プログラム運営管理について看護師の果たす役割を理解する（臨床、教育、環境、人材育成、制度）

モジュール5：自国の生活習慣病予防対策計画を作成する

4. 受け入れ体制

受け入れ窓口は本学の国際交流委員会であり、関係学科は健康栄養学科、健康スポーツ学科、看護学科、一部歯科保健は言語聴覚学科教員、事務局では事務局長、経理課、入試広報課などとの連携協力体制で実施しました。

5. 実施状況

学外の施設への見学9か所、学内での講義と実習を組み合わせ、20名ほどの教員により実施されました。また、学生との交流会2回、歓送迎会では学生のパフォーマンスもあり充実していました。（写真参照）

6. 評価

企画評価では、学内外の協力のもと運営できました。プロセス評価では、研修員の満足度は高く、その理由として

は講義と同時に現場の見学や実践的な方法を修得できたこと、学内外の関係者、学生が大変親切で親しみやすかったことなどがあげられていました。結果評価では、モジュール1～5まで、研修員の自己評価では全員5段階評価の4以上でした。最終的に、研修で学んだことを取り入れて、4カ国の各自の地域で実施するための生活習慣病予防対策の地域アクションプランが立案できました。立案した計画については自国に帰って現場と調整し、実施される予定です。

本研修を受け入れるにあたっては、忙しい中、教員や学外施設の協力が得られるかなど迷いや不安もありました。しかし実施してみて、研修員や彼らの地域や国への貢献と同時に、本学の国際的な研修体制や組織としてのスキルの蓄積にも役立ったのではないかと感じています。本研修については、新聞報道2回、新潟県のホームページにも掲載され、本学のように専門職種を養成する大学がおこなう国際貢献の具体例を示す機会にもなりました。またJICA生活習慣病予防研修を大学で企画・実施することは国内初めてであり、日本における先駆的モデルとなることと思います。最後になりましたが、関係してくださったすべての方々に感謝いたします。



開講式からスタート。研修員は緊張ぎみ



最初に健康診断を体験し自分の身体を知る必要性と方法を学ぶ（新潟リハビリテーション病院にて）



体力測定を体験し自分の体力を知る必要性と方法を学ぶ（本学体育館にて）



運動の必要性、実践方法として効果的なウォーキングについて学ぶ



自国は周囲を海に囲まれているものの、水中運動は初めて。今後太平洋諸島の海で歩く人がみられるかも？



各国の自慢料理を用いたバイキング方式で食事の適量とバランスについて学ぶ

南太平洋 4 カ国のJICA研修員が生活習慣病予防について 1 カ月の研修を受け自国の地域アクションプランを作成しました



佐渡へ 1 泊 2 日で研修旅行へ
相川愛広苑に視察見学。自国には
ない高齢者施設に必要性を感じた
とのこと



研修員との交流会で予定外の研修
員のダンスを見て大喜びの学生



最終日に研修で学んだことを取り
入れ、自国に帰って実施したい包
括的プログラムを発表



閉校式で、JICAと本学から修了証授与され感涙
の研修生たち。事後の健康度評価、体力測定で
は、半数以上の研修員が減量に成功し、体力の
測定値も向上してこれにも満足